

第13回
平取ダム地域文化保全対策検討会
＜平成23年度 調査成果概況＞

◆3-（1）生活文化現地調査：川洲畑現地調査

2012（H24）-07-27
アイヌ文化環境保全調査室

概況・要点の説明とその資料

1) 現地調査

- ・資料E-① H23年度 川洲畑試験畑位置図
- ・資料E-② 川洲畑試験畑での整備・播種作業に係る作業工程
- ・資料E-③ 川洲畑試験結果のとりまとめ

2) モニタリング調査

- ・資料E-④ モニタリング・管理作業の記録のまとめ
- ・資料E-⑤ 川洲畑における作業カレンダー

3) 食文化再現調査

- ・資料E-⑥ 試食会開催一覧
- ・資料E-⑦ 食文化試行レシピ集

4) 調査結果とりまとめ

- ・資料E-⑧ 「川洲畑」再現マニュアルと試行のまとめ
- ・資料E-⑨ 「川洲畑」再現マニュアルと試行のまとめ【目次】
- ・資料E-⑩ 「川洲畑」再現マニュアルと試行のまとめ【一部抜粋】

●まとめ ・資料E-⑪

1) 現地調査

資料 E-①

◆H23年度、川洲畑試験畑位置図



紫雲古津試験畑



豊糠試験畑



二風谷雑穀畑



1) 現地調査

◆川洲畑試験畑での整備・播種作業に係る作業工程



事前整備

播種作業に伴う儀礼

耕地・整備

畝きり(筋つけ)

播種・覆土

プレート付け

ネット張り



1) 現地調査

資料E-③

◆川洲畑試験結果のとりまとめ

試験畑名	作付種	作付面積	播種日	播種量	発芽確認	開花・出穂確認	収穫日	上下流	収穫量	合計	1㎡当り収量
紫雲古津試験畑	シブツケブ（イナキビ）	8㎡	5月16日	10.0g	6月2日 6月2日	8月17日開花	9月1日	下流側 上流側	40g 70g	110g	13.75g
	ムンチロ（アワ）	8㎡	5月16日	3.9g	6月2日 6月2日	9月14日出穂	10月7日	下流側 上流側	230g 117g	247g	43.38g
	アントウキ（アズキ）	8㎡	5月16日	11.8g	6月13日 6月2日	7月20日開花	9月1日	下流側 上流側	260g 320g	580g	72.5g
	ソンパ（ソバ）	8㎡	5月16日	12.4g	5月24日 5月24日	7月20日開花	8月30日	下流側 上流側	190g 170g	360g	45.0g
豊糠試験畑	シブツケブ	8㎡	5月25日	12.6g	6月7日 6月7日	8月11日出穂	9月1日	下流側 上流側	30g 40g	70g	8.75g
	ムンチロ	8㎡	5月25日	6.1g	6月7日 6月7日	9月5日出穂	10月12日	下流側 上流側	51g 24g	75g	9.38g
	アントウキ	8㎡	5月25日	8.2g	6月13日 6月13日	7月20日開花	9月1日	下流側 上流側	210g 190g	400g	50.0g
	ソンパ	8㎡	5月25日	25.5g	5月31日 5月31日	7月7日開花	8月30日	下流側 上流側	50g 80g	130g	16.25g

豊糠試験畑
シブツケブ
の生育状況



紫雲古津
試験畑
シブツケブ
の生育状況



2) モニタリング調査

◆モニタリング・管理作業の記録のまとめ



モニタリング日 2011年8月4日(木) 紫雲古津試験畑

配置図 

畑の様子 

播種月日 2011年5月16日 作付面積 32㎡

播種方法/播種量 シブツケ (イナキビ) = すじ蒔き/10g 土壌・土質 低地上(沖積土)・壤土

ムンチロ (アワ) = すじ蒔き/3.9g 畝の全長 4m × 2畝

ソンバ (ソバ) = すじ蒔き/12.4g 施肥条件 無施肥

アントウキ (アズキ) = 点蒔き/11.8g

生育状況

シブツケ (イナキビ)	ムンチロ (アワ)	ソンバ (ソバ)	アントウキ (アズキ)
			
下流側草丈大70cm 平均50cm 生え切れが多く、生育が遅れている。上流側草丈大70cm 平均50cm 生育あまり良くないが3本穂が出ていた。	下流側草丈大50cm 平均35cm 生育は遅れているが、草丈は揃っている。上流側草丈40~50cm 生育は遅れ、下流側より生え切れが多い。	下流側80~110cm 生育良く、花の下が青い。また、黒く結実しているものもある。上流側90~120cm 草丈はあるが下流側より少ない。	下流側16~30cm 開花中で半数は実が付き、生育は順調である。上流側20~35cm 開花中で半数実が付いている(長さ大10cm)。下流側より少し大きく、生育は順調。

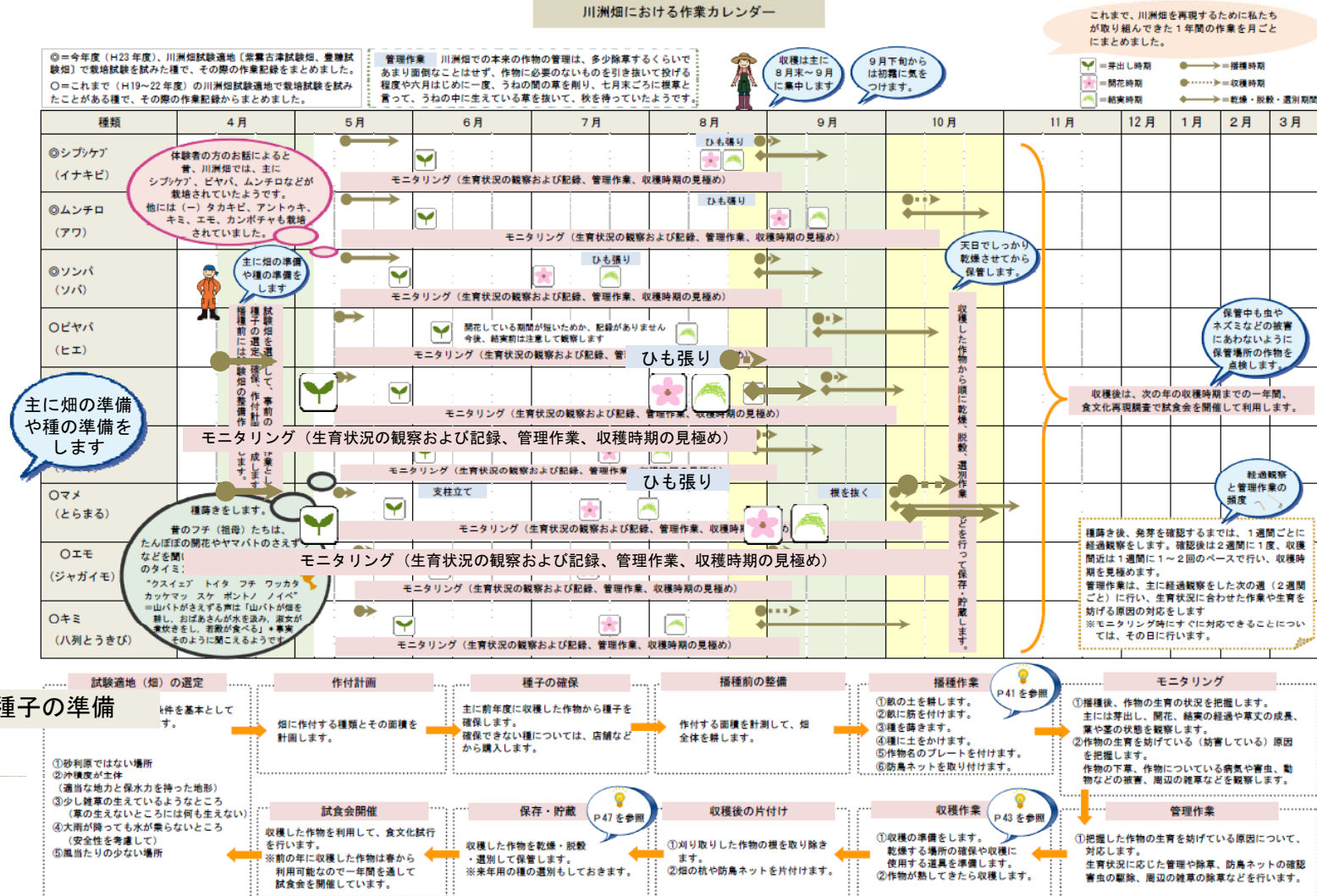
管理状況

			
ソンバの倒れ防止のためのために除草機が回ったため、中央部を縦に耕き、幅を狭くした。	シブツケに厄災の虫の卵と思われるものが葉に1つ産み付けられていたため、手で取り除き足で潰した。	畑内や作物の根元回りに雑草が生えていたため、除草をした。	【8/11】作物の根元回りに雑草が生えていたため、除草をした。



試験畑ごとにモニタリングや管理・整備作業の記録を整理

川洲畑における作業カレンダー



3) 食文化再現調査

資料E-⑥

◆H23年度、試食会一覧

伝統的な食文化を再現するとともに、今日風なアレンジも多様に試行した

開催日	調査内容	調査状況	メニュー	メニュー写真	感想	食文化試行レシピ記載ページ
8月3日	「スス（ヤナギ）、レックタラ（ヨブスマソウ）の釣り竿作成と鹿角針による漁法体験」に伴う食文化試行		・焼き干し		・屋外での焼き干しは、美味しかった。 ・焼けるまで時間がかかった。	※今後、レシピに追加する
9月12日	「食文化試行と二風谷育苗畑2での収穫体験」交流に伴う食文化試行調査		・ベカンベメシ（ヒシの実ご飯） ・豚軟骨の味噌汁 ・シト（団子） ・コロコニ（アキタブキ）の煮物 ・エモ（ジャガイモ）とマメ（マメ）の煮物 ・（－）モミジガサのめんつゆ漬け		・ベカンベは、クリのような美味しさだった。	P54、51、25、16、7、66
10月14日	貫気別中学校「校外学習」授業に伴う食文化試行調査		・ヤム、アハメシ（クリ、ツチマメご飯） ・シト ・豚軟骨の味噌汁 ・コロコニの煮物		・中学生と一緒にの食事は良かった。 ・豚軟骨はとても柔らかく美味しかった。	P25、51、16 ※ヤム、アハメシは、今後レシピに追加する
10月26日	先住民族国際交流事業でのサーミ民族との交流会に伴う食文化試行		・ベカンベメシ ・ユクオハウ（鹿汁） ・チボロスエモ（イクラをまぶしたジャガイモ） ・ブクサ（ギョウジャンニク）の卵とじ ・ラタシケ（湿ぜ煮） ・サカンケ（干し肉）		・サーミ民族の方は、あまりアイヌ料理が好みようではなかった。	P54、69、42、50、70、18
11月8日	特別採捕に伴うシベ（シロザケ）の食文化の再現・試行調査		・シブツケメシ（イナキビご飯） ・チェブ'オハウ（魚汁） ・アマチェフ'（焼き魚） ・シベのホイル焼き ・チタタ'（ぬた・刻んだ物） ・チボロスエモ		・現代風にアレンジしたシベのホイル焼きは、好評だった。 ・チタタ'は、手をつけない人が多かった。	P29、37、42 ※シブツケメシは、今後、追加する ※チェブ'オハウ＝P31を参照 ※アマチェフ'＝P5を参照

3) 食文化再現調査

◆食文化試行レシピ

ラタシケブ



～ 材料 ～

- ・カンボチャ / カボチャ
- ・シケレベ / キハダの実 100g (乾燥)
- ・マメ / とらまる 400g
- ・砂糖 適量



下処理 カンボチャは皮を剥きます



下処理 とらまるは一晩水に浸けます



シケレベ



下処理 シケレベは一晩水に浸けます

混ぜ煮

作り方



前日から水に浸けておいたとらまるは、軟らかくなるまで茹でて、ザルにあげておきます



皮を剥いたカンボチャは茹でます



カンボチャが軟らかくなったら、浸けておいた水を切ったシケレベをカンボチャの鍋の中へ入れます



次に一晩水に浸けたとらまるを鍋に入れます

10/26

H23年度



大きくかき回し、味をみてから砂糖を加えます



全体に大きく混ぜて出来上りです

●＝聞き取り・○＝文献情報

カンボチャ

○塩煮にしてそのまま食べたり、または小豆汁に塩を入れたものにかぼちゃの切ったものやシト（だんご）を入れてかぼちゃ汁粉にして食べる。また、ルルやオハウ（とにも汁もの）、ラタシケブ（煮もののようなもの）としても食べる。

ラタシケブには干したかぼちゃを用いるが、干しカボチャはかぼちゃの皮をむいて二、三分の厚さに輪切りにし、わたをとってから棒に通してから干して乾燥させたものである。三日月形にそぐように切って干すこともある。二斗樽につくくらいつくる。うらなりや若いものももつたいないので乾燥させる。熟したかぼちゃは早く干せるが、うらなりは乾燥しにくい。オンネフチ（祖母）はかぼちゃを肉と同じように大切にし、三十個以上のかぼちゃを干して家の中に入れておく。それでも冬場に凍れることがある。凍れたものは、ゆでてしばべてラタシケブに用いる。【萩中美枝 細井朝子 藤村久和 吉原敏弘 村木美幸 1992年『日本の食生活全集 聞き書 アイヌの食事』P55 (社) 農林漁村文化協会】

シケレベ

○きはだのことを北海道方言でしころの木といい、アイヌ語ではシケレベニといいます。秋にかるとこの木の皮（シケレベ）を多量に採取します。緑色をした皮を霜の降らないうちにとって、細い糸で編むようにしてつり下げて乾燥させ、貯えておきます。冬になるとコサヨ（粉粥）、あるいはシケレベラタシケブというのを作って食べました。シケレベラタシケブというのは、いろいろなものを混ぜて煮たなかに、このシケレベを香辛料としてほんの少し（5人で食べるくらいの量を作るのに手のひらを覆ませた中に入るくらい、約五十粒）入れたものです。【荻野茂 1998年『アイヌの民具』P194 株式会社すずさわ書店】

調査結果とりまとめ

資料E-⑧

◆「川洲畑」再現マニュアルと試行のまとめ

沙流川総合開発事業の内 平取ダム地域文化調査業務
アイヌ文化環境保全対策調査 調査報告書

伝統的農法実験の試み

—「川洲畑」再現マニュアルと試行のまとめ—



3-生活文化現地調査（1）川洲畑現地調査

Ver.2011 試作版

調査結果とりまとめ

資料E-⑨

◆「川洲畑」再現マニュアルと試行のまとめ【目次】

項目の一つ
一つが成果

- ・ 川洲畑での調査にともなう作業工程
- ・ 川洲畑における作業カレンダー
- ・ 川洲畑でのこれまでの栽培試験種
- ・ 播種作業にともなう作業工程
- ・ 雑穀、穀物等の収穫の手順
- ・ 雑穀、穀物等の保存・貯蔵の手順
- ・ 川洲畑での畝きり・筋つけ作業
- ・ 川洲畑での播種作業
- ・ ピパ（穂摘み用貝殻）でのイチャ（それ切る）
- ・ 生活文化に係る山菜採取カレンダー
- ・ 山菜の保存・貯蔵の手順

盛り込まれて
いる情報



調査結果とりまとめ

資料E-⑩

◆「川洲畑」再現マニュアルと試行のまとめ【一例抜粋】

川洲畑試験畑での
作業の際に活用
できます



川洲畑での畝きり・筋つけ作業



畝きりと筋つけ

*基本は、耕く部分の土だけを軟らかくして種蒔きを行います。

2011年度、雲梯試験畑



①草の根をだくように切り、切った根(草)は、深く掘らないよう、草だけ寄せるようにして畝を作ります。

②畝の土を軟らかくします。

③草削りの角を使い、後方に進みながら筋をつけます。筋をつける所は、踏まないように溝の底や深さは一定にします。

(この方法で耕くことを削り耕きと言います)

2011年度、紫雲古津試験畑



①縁で土を砕きながら、土を寄せて畝を作ります。その際、畝の土は横に崩さないようにします。(2011年度は、17cmの高畝にしました)

②草削りの角を使い、後方に進みながら畝の中央に筋を付けます。筋をつける所は、踏まないように溝の底や深さは一定にします。



*2008年度の書籍「川洲畑は試験畑1と2では、本来の川洲畑に近い条件での再現にも試みました。



①除草後、レーキ(籠手)で土を平らにします。②畝や足で筋つけを行います。

高畝とは

表土を高く盛り上げて作った畝で表層が広く、人間熱や蒸気が吸収されやすく、夜に雨水がよく取り込まれる。水はけの悪い場所や、表土が浅い所に有効な畝です。



外側からの雨に当たって表土が崩れやすいため、畝を高く作るには、畝の横に凹凸を付けて水を溜め、これを表土にするとうまくいきます。



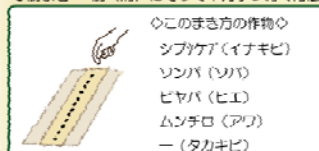
川洲畑での播種作業



種まきと土かけ

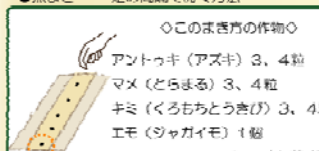


●筋まき…筋(溝)にぞって1列ずつ蒔く方法



◇このまき方の作物◇
シブツゲ(イナキビ)
ソシバ(ソバ)
ビヤバ(ヒエ)
ムンチロ(アワ)
一(タカキビ)

●点まき…一定の間隔で蒔く方法



◇このまき方の作物◇
アントウキ(アズキ) 3、4粒
マメ(とらまる) 3、4粒
キミ(くろもちとうきび) 3、4粒
エモ(ジャガイモ) 1粒
*1つの点に蒔く数

*これまでに川洲畑で試験を行った種蒔



①畝に足を置き、筋をまします。

②種を手に持ち、親指を動かしながら種をまします。

③種を蒔きながら、筋の横の土をかかとを使い種の上に軽くかけます。

まとめ

資料E-⑪

川洲畑や往時の生活環境等についてのまとめ

伝統的生活文化と過去の自然・文化環境について効果的な調査ができた



★これらの成果を今年度以降も継続的に蓄積しながら拡充・活用していく

普及のあり方を提示することを意識したまとめをした

伝統的農法実験の試み —「川洲畑」再現マニュアルと試行のまとめ—



3-生活文化現地調査（1）川洲畑現地調査

Ver.2011 試作版

食文化試行レシピ

3-生活文化現地調査（1）川洲畑現地調査

食文化再現調査

Ver.2011

試作版

第13回 平取ダム地域文化保全対策検討会

＜平成23年度 調査成果概況＞

◆4 地域文化保全対策調査

2012（H24）-07-27
アイヌ文化環境保全調査室

概況・要点の説明とその資料

1) 保全対策試行調査

- ・資料F-① H23年度、試行調査一覧表
- ・資料F-② 学校教育分野での試行【概要】
- ・資料F-③ 学校教育分野での試行【プログラムの作成】
- ・資料F-④ 学校教育分野での試行【視聴覚資料作成とその活用】
- ・資料F-⑤ 各分野における成果活用の試行【概要】
- ・資料F-⑥ 各分野における成果活用の試行【2、5分野での試行】
- ・資料F-⑦ 各分野における成果活用の試行【作成資料とその活用】
- ・資料F-⑧ コミュニティとの広がりでの試行【概要】
- ・資料F-⑨ コミュニティとの広がりでの試行【作成資料とその活用】

2) 意向調査

- ・資料F-⑩ 貫気別中学校社会科[歴史]特別授業後の意見・感想

3) 地域文化保全対策プログラム作成

- ・資料F-⑪ プログラム作成の流れ

●まとめ・資料F-⑫

①保全対策試行調査

資料F-①

◆H23年度、試行調査一覧表

●＝調査室が作成 △＝調査室が一部作成 ×＝主に主催者側が作成 ○＝意向調査実施 ―＝意向調査未実施

	調査内容	実施日	対象	実施箇所 (使用施設も含む)	プログラム	調査成果を活用して作成した資料		意向把握 (意見・感想) (アンケート等)	◇取り組みの特徴◇
						紙資料 (パンフレット含)	コンテンツ (パワーポイントによるスライド画面)		
学校教育分野での試行	平取町立貫気別中学校 1年生社会科[歴史]特別授業	8/24	貫気別中学校1年生	平取町立貫気別中学校	●	●	●	○	◇昨年度(H22年度)までの2年間での取り組みで積み重ねた成果を基礎として試行調査を実施した。
	平取町立貫気別中学校 1年生[校外学習]授業	10/13	貫気別中学校1年生	平取町アイヌ文化情報センター (調査室:育苗畑1) (萱野茂二風谷アイヌ資料館) (平取地域イオル再生事業による復元チセ=ポロチセ、一号チセ)	●	●	●	○	◇貫気別中学校での「総合的な学習」の時間の「校外学習」としてアイヌ文化に興味を持った生徒からの依頼を受け、試行調査を行った。アイヌ文化情報センターを始め、近隣の施設等も活用し、関係機関や他分野との連携を図った。
各分野での試行	3-生活文化現地調査(1)川洲畑現地調査での試行 ○豊糠試験畑での播種作業	5/25	北海道開発局室蘭開発建設部 沙流川ダム建設事業所職員	豊糠試験畑	●	●	×	○	◇3-(1)川洲畑現地調査での取り組みの中でこれまでの成果を活用し、協力者の方々と沙流川ダム建設事業所との協同による試行調査を実施した。
	3-生活文化現地調査(1)川洲畑現地調査での試行 ○食文化試行と二風谷育苗畑2での収穫体験	9/8	北海道開発局室蘭開発建設部 沙流川ダム建設事業所職員	二風谷育苗畑2	●	●	×	○	◇3-(1)川洲畑現地調査での取り組みの中で沙流川ダム建設事業所職員との協同による試行調査を実施した。食文化再現調査での試食会、育苗畑2の位置づけについて解説し、他分野との連携を図った。
	2-生物の生存環境調査、5-有用植物栽培試験及びモニタリング調査 ○NHK野外講座「辻井達一先生の植物百科-びらとり紀行-」	6/8	一般 (主に札幌市民)	平取町 芽生すずらん群生地 多様な木本・草本類の保全 モデル地区・2:S-05 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 調査室:育苗畑1	△	●	×	○	◇他分野との連携を図り、調査区域(平取ダム建設予定地周辺)を中心に二風谷地区において主体的な取り組みでの試行調査を実施した。
	3-(2)伝統的漁法調査 ○アイヌ文化技能伝承講座 「川魚獲りと加工法」	7/10	町民	ニセウ川、ニセウ園	×	×	×	―	◇3-(2)伝統的漁法についての調査での成果を活用し、町民の方々を対象に伝統的な漁具を使用した試行調査を実施した。
	3-(2)伝統的漁法についての調査 ○スス(ヤナギ)、レックツタ(ヨブスマソウ)の釣り竿作成と鹿角針による漁法体験	8/3	北海道開発局室蘭開発建設部 沙流川ダム建設事業所職員	額平川支流の宿主別川とその周辺	●	×	×	―	◇3-(2)伝統的漁法についての調査での成果を活用し、沙流川ダム建設事業所職員を対象に伝統的な漁具を使用した試行調査を実施した。
アイヌ文化関係諸活動団体との協同による試行	豊かな川と親しみ学ぶ 「沙流川親子教室」	8/20	一般 (小学校1～6年生、中学生の親子)	沙流川支流のニセウ川とその周辺	×	△	×	―	◇地域の活動団体の活動に参加し、これまでの成果を活用し、主に一般を対象とした試行調査を実施した。
	第42回チブサンケ(舟下ろし祭)本祭 ○ウトムヌカラ(結婚する)	8/21	一般	平取町立二風谷アイヌ文化博物館 敷地内ポロチセ	●	●	×	―	◇アイヌ文化に携わる地域の活動において、資料の提供と作成、活動の記録等を行った。
	北海道大学サステナビリティ・ウィーク2011 国際シンポジウム	11/2	一般 (主に研究者)	札幌:北海道大学 学術交流会館小講堂	×	●	●	―	◇北海道大学主催の国際的な会議の場において、調査室の成果を活かした報告を行った。

①保全対策試行調査

資料F-②



















◆学校教育分野での試行【概要】

貫気別中学校では
計2回の試行

1年生 社会科〔歴史〕特別授業

1年生「総合的な学習の時間」校外学習授業

プログラムの実施状況

はじめに				
	授業前の準備作業⇒①平取の位置・アクセス、二風谷のミュージアム群の紹介⇒②私たちの調査・研究、活動の拠点⇒③アイヌ文化情報センター紹介			
1それぞれの歴史				
	近隣の町の歴史⇒	平取町の歴史⇒	平取町の歴史⇒	身近な地域の歴史⇒
2交易の歴史とアオトラの石				
	①アイヌの人たちの交易品⇒	②交易の跡とアオトラ石の流通について⇒	体験：アオトラの石斧⇒	③麓平座アオトラの石磨による丸木舟づくり⇒
3身近な地域の歴史と文化				
	①身近な地域の風景から⇒	①身近な地域の風景から⇒	②身近な地域のアイヌ語地名⇒	④地域に語り継がれている物語⇒
まとめ				
	授業のまとめ・感想⇒	授業のふりかえり⇒	学習ノート（意見・感想など）⇒	意見交換を通しての意向把握⇒

プログラムの実施状況

準備から開始まで				
	授業前の準備⇒	昼食（食文化試行）準備⇒	授業開始の挨拶⇒	今日の流れの説明⇒
1どのように資料を採っていたのか2採っていたのか				
	チセ（家）にて漁具・漁法の説明⇒	作成したスライド画面での漁具・漁法の説明⇒	シト（団子）作り体験⇒	アハ（ヤブマメ）掘り体験⇒
3どんな服装をしていたのか、4帽子や手袋の小物があったのか				
	アットウツカ（機織り機）見学⇒カバリミ（切り伏せ刺繍した単衣の着物の）試着体験⇒	衣服について説明⇒	工芸館での見学⇒	
5どんな生活を送っていたのか（想像）				
	昼食（食文化試行）⇒	昼食（試行）メニュー⇒	萱野茂二風谷アイヌ資料館見学⇒	萱野茂二風谷アイヌ資料館チセ見学⇒
6家の中にはどんなものがあつたのか				
	萱野茂二風谷アイヌ資料館周辺施設見学⇒	イオルボロチセ見学⇒	イオルボロチセ見学⇒	授業終了の挨拶⇒

意向（意見把握後）に修1パンフレット関連資料③一タ版のみを参照して

◆学校教育分野での試行【プログラムの作成】



伝統的漁法や漁具についての紹介



アハ（ヤブマメ）堀り体験



シト（団子）調理体験

●プログラムの内容

実施日：2011年10月14日（金） 時間：10:00～14:45 / 場所：平取町アイヌ文化情報センター／生徒数：1名 参加教員：1～3名（時間交代）

【学習内容】 アイヌ文化についての調査

【学習項目】 1-アイヌの人たちはどうやって食糧をとっていたのか
2-食糧をどうやって料理していたのか
3-アイヌの人たちは、どんな服装をしていたのか
4-帽子や手袋などの小物はあったのか
5-アイヌの人たちはどんな生活を送っていたのか
6-家の中にはどういふ物が置かれていたのか

時間	流れ/項目	内容	活用教材など	具体の説明など
到着～ 9:00 (60分)	1-アイヌの人たちはどうやって食糧をとっていたのか	①伝統的漁法や漁具を紹介 ②山菜、雑穀等を紹介	3-(2) 伝統的漁法調査で作成した漁具（イオル復元1号チセで展示している漁具） [パワーポイント] 調査記録写真 図書資料	・3-(2) 伝統的漁法調査担当者に依頼→漁具の使用方法について説明 [アハ（鉤針）、マレフ（鉤・回転鉤・自在鉤）、ヤツヤ（すくい網）など] どんな漁具が獲れるのかも説明 見学した漁具をスライド画面で復習 ・ブクサ（ギョウジャニンニク）、ブクサキナ（ニンジンソウ）、コロニコ（アキタブキ）、シブツケ（イナキビ）を写真で紹介し、私たちも現在、食材として採取していることを説明
10:00～ 10:30 (30分)	2-食糧をどうやって料理していたのか	①本日の食文化試行メニューを紹介 ②シト（団子）調理体験 ③アハ（ヤブマメ）掘り体験	[パワーポイント] 食文化試行レシピ 3-(1) 川洲畑現地調査で収穫したシブツケ（イナキビ） サマツキニ（横臼） ポニユタニ（小さい杵） 育苗畑1で栽培しているアハ	・メニューに使用している山菜や雑穀を説明 ・シト作りの工程のシブツケを物にする作業を生活用具を使用して体験し、こねる作業も体験 指導しながら調理工程について説明 ・5-有用植物栽培試験及びモニタリング調査担当者に依頼→育苗畑1で生育しているアハ掘りの手順を説明
10:30～ 11:00 (30分)	3-アイヌの人たちは、どんな服装をしていたのか	①アットウ（オホヨウの木の子の織物・着物の）紹介 ②アットウ（カバ）（機織り機）体験 ③アットウ、カバリミ（切り伏せ刺繍した単衣の着物）試着体験	[パワーポイント] 調査記録写真 図書資料 アットウ（カバ）（機織り機） カバリミ、アットウ	・写真でアットウの素材となるアツニ（オホヨウの木）の部位や皮刺ぎから乾燥までの工程を説明 ・アットウ（カバ）でアットウの工程を説明 ・アットウ、カバリミの素材や文様について説明
11:00～ 11:30 (30分)	4-帽子や手袋などの小物はあったのか	①生活用具（装飾品）の紹介 ②工芸館見学	[パワーポイント] 図書資料 アイヌ文化情報センター工芸館（販売している工芸品）	・図でアイヌの人たちが身に付けている衣服類を写真で説明 ・工芸館で販売している装飾品を実際に触れたり、触れられながら用途を説明
11:30～ 12:00 (30分)	5-アイヌの人たちはどんな生活を送っていたのか	①アイヌの人たちの生活のようすを紹介 ②星食メニューの素材の紹介	[パワーポイント] 調査記録写真 図書資料 作成した年表 3-(2) 伝統的漁法調査で獲って焼き干した魚 3-(1) 川洲畑現地調査で収穫した穀物	・一日の仕事、一年の仕事の流れを年表で紹介し、年表に記載されている事例を図や調査記録写真で説明 ・収穫した穀物を活用して料理の素材を説明
12:00～ 13:00 (60分)	昼食（食文化試行）	①伝統的料理の試食体験	[パワーポイント] 3-(1) 川洲畑現地調査で収穫した穀物、食文化再現調査のレシピ	・星食メニューの説明
13:00～ 14:30 (90分)	6-家の中にはどういふ物が置かれていたのか	①チセ（家）の中のようすを紹介 ②チセ見学	[パワーポイント] 調査記録写真 図書資料 萱野茂二風谷アイヌ資料館 平取地域イオル再生事業で復元されたチセ（家）	・図に記載されている生活用具などを説明 ・展示品の解説→資料館館長に依頼 ・資料館敷地内のチセでのアットウの見学 ・資料館敷地内のイユタ（バッテリー：精米用具）、ア（足高倉）の説明 ・ポロチセ（大きい家）内の展示物の説明とトマ（ゴザ）編みを見学
14:30～ (15分)	全体を通しての質問など			

アイヌ文化情報センター
工芸館見学

萱野茂二風谷アイヌ資料館見学

平取地域イオル再生事業
ポロチセ見学

◆学校教育分野での試行

【視聴覚資料作成とその活用】

資料F-④

アイヌ文化情報センター内での
視聴覚資料を活用した授業のようす



☆活用方法を提示

<p>スライド 17</p> <p>それぞれのメニューでどのような食材が使用されているのかを紹介。</p> <p>キナオハク（山草味噌汁）</p>	<p>スライド 18</p> <p>私たちも現在、食材として採取し、利用していることを説明。</p> <p>実際にシト作りの工程を体験。</p> <p>②シト（屑子）醸造体験③アハ（ヤブマメ）漬り体験</p>	<p>スライド 19</p> <p>実習生1のアハを実際に漬けてもらった。</p> <p>2-生物の生産環境維持調査と3-有用植物栽培試験及びモニタリング調査担当の協力を得た。</p> <p>3-アイヌの人たちはどんな服装をしていたのか</p>	<p>スライド 20</p> <p>活用後、項目のタイトルを追加</p> <p>①アットウ（オヒョウの木の皮の織物・着物）の紹介</p>
<p>スライド 21</p> <p>写真でアットウを紹介。</p> <p>アットウ（オヒョウの木の皮の織物・着物）</p>	<p>スライド 22</p> <p>紙芝居の講義成果（記録写真）を教材として活用。</p> <p>アットウの素材となるアツニ（オヒョウの木）の利用部位や特徴を説明。</p> <p>アツニ（オヒョウの木）</p>	<p>スライド 23</p> <p>紙芝居の講義成果（記録写真）を教材として活用。</p> <p>アツニの皮剥ぎから数珠までの工程を説明。</p> <p>アットウの作り方</p>	<p>スライド 24</p> <p>活用後、項目のタイトルを追加</p> <p>4-帽子や手袋などの小物はあったのか</p>
<p>スライド 25</p> <p>図書資料の図を活用し、図や表につけている装飾品を紹介。</p> <p>テリマ（数珠用かんじき）、ユケリ（鹿皮の靴）、ユケウ（鹿皮の衣）、ホリ（鹿蹄・きやはん）</p> <p>①生活用具（装飾品）</p>	<p>スライド 26</p> <p>図で説明した後、アイヌ文化情報センター内の工芸館を見学、展示・販売されている工芸品を観たり、実際に触れたりしながら、用途を説明。</p> <p>コンチ（種子）</p>	<p>スライド 27</p> <p>活用後、項目のタイトルを追加</p> <p>5-アイヌの人たちはどんな生活を送っていたのか</p>	<p>スライド 28</p> <p>当日配布した紙資料②：生家屋・二風谷の一年を活用。</p> <p>二風谷の一年 ～アイヌの人たちの暮らし～</p> <p>年表に記載されている事項を図や資料記録写真で説明。</p>
<p>スライド 29</p> <p>アイヌの人たちの一日の仕事や一年の仕事の流れを紹介。</p> <p>春（バイカ）</p> <p>バイカ（春）</p>	<p>スライド 30</p> <p>図書資料の図を活用。</p> <p>分りやすく季節ごとに紹介。</p> <p>穴熊、熊祭りの小籠焼</p>	<p>スライド 31</p> <p>紙芝居の講義成果（記録写真）を教材として活用。</p> <p>穴熊祭とは、どのような方法の儀なのかを説明。</p> <p>山菜採り</p>	<p>スライド 32</p> <p>紙芝居の講義成果（記録写真）を教材として活用。</p> <p>春に採取できる山菜の種類や採り方、山菜採り師の心がまえを説明。</p> <p>川原での焼餅こしと種まきについて紹介。</p> <p>短歌こし、種まき</p>

①保全対策試行調査

資料F-⑤

◆各分野における成果活用の試行【概要】

2-生物の生存環境現地調査



有用植物保全モデル地区S-05
での取り組みや植物の紹介

5-有用植物移植試験及び モニタリング調査



育苗畑1、2での取り組み
や植物の紹介

3（1）川洲畑現地調査



ピパ（穂摘み用貝殻）での
収穫体験

3（1）川洲畑現地調査 （食文化再現調査）



収穫物を利用した食文化試行

3（2）伝統的漁法についての調査



伝統的漁法の体験

1-精神文化保全対策に関する調査 3（1）川洲畑現地調査



儀礼と播種体験

◆ 2-生物の生存環境現地調査 5-有用植物移植試験及びモニタリング調査での試行



すずらん群生地見学

S-05区域までのルート沿いの
植物の説明スポット1、2水辺空間の
植物の説明

プログラム内容

NHK野外講座 「辻井達一先生の植物百科」
—びらとり紀行—

実施日：6月8日（水）

時間：12:00～15:00

参加者【NHK文化センター新さっぽろ教室】 45名 【調査室】 10名

時間	進行	内容
8:00	新さっぽろ発	
9:45	アイヌ文化情報センター到着	
9:50	アイヌ文化情報センター出発	バスへ乗車
↓		車中説明 *パンフレット、アンケート配布
10:30	芽生すずらん群生地 到着	
↓	すずらん鑑賞	参加者と同行
11:15	芽生すずらん群生地出発	
↓		徒歩で参加者を誘導し、道路沿いの有用植物について説明
11:40	多様な木本・草本類の保全モデル 地区-2：S-05 到着	
↓	S-05 見学	スポット1、2水辺空間周辺の説明
1:00	食文化試行（昼食）	食文化試行メニューの説明 メニューの材料となるスポットの草本の説明
12:50	S-05 見学	スポットごとの説明
13:15	多様な木本・草本類の保全モデル 地区-2：S-05 出発	徒歩で移動し、バスへ乗車
↓		車中説明
14:20	二風谷アイヌ文化博物館 見学	展示物の解説など
14:50	育苗畑1 見学	成り立ちやレイアウトなどの説明
15:45	アイヌ文化情報センター出発	
17:30	新さっぽろ到着	

S-05区域での昼食
（食文化試行）S-05区域見学
（スポットごとの説明）育苗畑1 見学
（成り立ちや植物の説明）

【作成した資料とその活用】


資料F-⑦

すすらん群生地～S-05区域～二風谷地区における有用植物栽培試験の紹介

「植物園」のネットワークを目指した取り組み

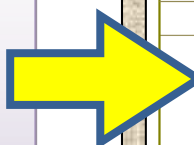
すすらん群生地～S-05区域～二風谷地区における有用植物栽培試験の紹介

NHK野外講座
辻井達一先生の植物百科 びらとり紀行
～植物園ネットワークを根ざした取り組み～



平取町アイヌ施策推進課
アイヌ文化環境保全調査係

1



●作成した資料とその活用例

パンフレットは、すすらん群生地で配布し、私たちの取り組みを紹介しました。

◎当日の配布資料《NHK野外講座「辻井達一先生の植物百科」びらとり紀行》パンフレット

すすらん群生地～S-05区域～二風谷地区における有用植物栽培試験の紹介

意向（意見・感想）把握後に修正したパンフレットは、関連資料-③（電子データ版のみに所収）を参照してください

							
表紙	ネットワーク整備のイメージ	S-05区域での栽培試験	ゾーン設定のテーマ	ゾーンのテーマの解説	①儀礼ゾーン（スポット1、2、水辺空間）	②生活ゾーン（アウニ：オシオウ、カリンバニ：エジヤマザクラ）（ミニスボット/A）	③食育ゾーン（スポット3、ガードフェンス2・3）
							
④兼用ゾーン（ガードフェンス1）（ミニスボット/I）	⑤基盤ゾーン（ミニスボット）	二風谷地区育苗畑1での栽培試験	育苗畑1草本カレンダー	二風谷地区育苗畑2での栽培試験	育苗畑2での取り組み	表紙紙	

文化景観を楽しむ ～伝承・伝説地・アイヌ語地名の紹介～

④兼用ゾーン（ガードフェンス1）（ミニスボット/I）

①保全対策試行調査

◆コミュニティ（地域・民族）との広がりでの試行【概要】

豊かな川と親しみ遊ぶ
沙流川親子教室



アイヌ語地名パンフレット
を活用



シノッポンク（遊びの小弓）
カリッペカッ（輪差し）の体験

北海道大学サステナビリティ・ウィーク2011
国際シンポジウム「先住民族と教育」



生活に根差した精神文化の継承
1、3（1）、3（2）分野の
成果を活用



植物保全整備計画の作成と着手
2、5分野の成果を活用



学校との連携による教育普及活動
4分野の成果を活用

第42回チプサンケ（舟下ろし祭）
でのウトムヌカウ（結婚する）



情報の提供と資料作成

【作成した資料とその活用】

◆北海道大学サステナビリティ・シンポジウム2011 国際シンポジウム「先住民族と教育」 (1) 現代社会における先住民族の知恵の伝承

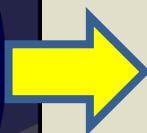
資料F-⑨

☆さまざまな分野
の情報を活用

国際シンポジウム「先住民族と教育」 セッション5

(1) 現代社会における先住民族の知恵の伝承 ●文化環境の調査・保全活動を通じた継承 ～北海道平取地域におけるアイヌ文化環境保全調査事例②～

1. 生活に根ざした精神文化の継承
～伝統を探究しつつ今に活かす試み～



儀礼に関するまとめ-2

紫雲古津における川洲畑の情報

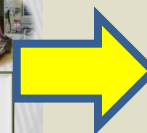
伝統的漁法に関する取り組みの工程

国際シンポジウム「先住民族と教育」セッション5

(1) 現代社会における先住民族の知恵の伝承

文化環境の調査・保全活動を通じた継承 ～北海道平取地域におけるアイヌ文化環境保全調査事例②～

2. 学校との連携による教育・普及活動
～住民参画の調査による知見・体験の提供～



H22年度、実績報告

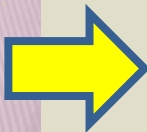
■貫気別中学校 特別授業のプログラム

■関係機関等への普及活動の試み

(1) 現代社会における先住民族の知恵の伝承

●文化環境の調査・保全活動を通じた継承 ～北海道平取地域におけるアイヌ文化環境保全調査事例②～

3. 植物保全整備計画の作成と着手
～体感できる学びの場づくりの展覧～



2007年度選定した
有用植物保全候補区域 35か所

水生植物学びの場

S-O5多様な植物保全区

アイヌ文化環境保全調査室での業務分野
2-生物の生存環境調査
5-有用植物移植試験及びモニタリング調査 から

②意向調査

資料 F-⑩

【貫気別中学校 1 年生社会科[歴史]特別授業後の意見・感想】

生徒からの意見・感想（生徒数：4 名）	参観教員からの授業後の意見・感想（参観教員：2 名）
<p>《授業中メモ》 授業中わかったことを書く</p> <p>＜1-それぞれの地にそれぞれの歴史＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャクシャインはアイヌの人のリーダー。 ・1669年に『シャクシャインの戦い』があった。 <p>＜2-交易の歴史とアオトラの石器＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アオトラ石で丸木舟を作れてすごいと思う。 ・アオトラ石は、硬くて、じょうぶな石ということがわかった。 ・アオトラは平取でしかとれない。 ・平取町でしか取れない青トラの石が青森県にあつてすごいと思いました。 <p>＜3-身近な地域の歴史と文化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角山を知った。 ・平取町でしかとれない石が三内丸山遺跡にあった。 ・平取は、崖（ピラ）が多い。 ・アイヌの歌があることがわかった。 ・平取には遺跡がたくさんある。 ・ピラは崖っていう意味。 	<p>【授業を参観した教員の方からの授業への感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日、気付いたが北海道には「平（ひら）」地名が少ない。小平（おびら）、小平（こびら）、豊平。やっぱり、「ナイ」と「ベツ」が圧倒的に多い。稚内、芦別。北海道をいろいろ回っているが「平」は少ないと思って見た。 ・地名はピックアップしていくと楽しいが、結構、いろいろな知識がないと難しい。アイヌ語地名に限らず、地名はある程度、年がいかないと面白さが分からないのかもしれない。 ・改めて「本当に三角だった」というのを見ながらの三角山の説明は良かったと思う。 ・アオトラの石斧への興味・関心度も男女差はあると思った。 ・社会（世の中の動き）に関しては、男女差もあるが個人差や学年差、その年の反応もある。1 年生なので発想がまだ柔軟ではないと感じた。 ・アオトラのことにに関しては、子供たちは感動している様子だった。言われて「ああ、そうなんだ」と気付いてはいると思う。 ・三内丸山遺跡と平取の地理的な距離感も全然、分かっていないようだった。三内丸山遺跡に行って初めて分かることや授業を3 年間受けて初めて分かることだと思う。 ・シャクシャインの説明が噛み砕いていたので分かりやすかった。（小学校の副読本に載っていると思うが、その副読本を見て、きちんと説明が出来る社会が専門ではない先生が、どのぐらい町内にいるのかという点で、分かりやすかった） ・これまでの集大成として内容が盛りだくさんだったと思うが、素材としては揃って来たと思う。この3 年間でかなり洗練されて来ている。 <p>【授業を参観した教員の方から今後の授業に向けての意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度で貫気別中学校が閉校になってしまうが、せっかく新しい形が出来て来て、もったいないという感じがする。 ・生徒に意見感想を書かせる場合、書く時間を取り、今の内容の半分ぐらいにして調べる時間なども与えると良いと思う。書く時間を与える場合は、授業の内容の量を減らさないといけない。 ・私たち調査室というのは、このような仕事をしていますと言うのも教科の勉強ではないけれども、生き方とか考え方とか、伝えることは凄く大事なことだと思う。 ・アオトラの石斧の授業を特化するならば、実際に作ってみたり、石を探しに行ったりして夏休みの集中授業としても考えられる。山に行つて石を見たり、地形や地質を見たり、植物を見たりすることによって、内容の濃いものになると思う。その前に入門編として今日のような内容が考えられる。 ・時間が許されるのであれば、1 つ 1 つを詳しくとか、2 時間ずつとか、出来れば最高だと思う。 ・アオトラ体験とか、イベントと言ったら軽くなってしまうかもしれないが、夏休みの2 日間とかで企画してみるのもいいと思う。 ・いろいろな素材の中で集約して出来るような機会があればいいと思う。 ・学校教育もあるが、生涯学習の中で体験活動という方法もある。 ・大人は体を動かすより、地名が面白いという人もいると思う。
<p>《授業を終えて》 授業の感想や意見を自由に書く</p> <p>＜1-それぞれの地にそれぞれの歴史＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャクシャインが、アイヌの人のために、和解しに行ったのに、殺してしまうなんてひどいと思った。 ・アイヌの人たちの歴史や文化が知れて良かったです。 <p>＜2-交易の歴史とアオトラの石器＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アオトラの石器は、本州と交換をしていた事がわかった。 ・アオトラって、色々使えるんだと思った。 <p>＜3-身近な地域の歴史と文化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平取は、遺跡の宝庫と呼ばれていてとてもすごいと思った。 <p>＜全体を通して＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とっても丁寧な説明だったし、聞いていて面白いなと思いました。 ・アイヌの人たちの歴史や文化が知れて良かったです。 ・平取の事を初めて知ったのがたくさんあって、勉強になってよかったです。 	

資料 F-⑪

試行調査⇒意向調査⇒資料の修正、解説した内容を整理⇒プログラム化する

試行調査

意向調査



試行した内容を整理 (プログラム化)

資料の修正

修正前

② 生物の生態や環境意識、③ 有用植物の活用などに関する知識の習得
→ びらとちねとびらでのツアーの中で

試行した内容と整理 (プログラム化)

今年度、初めての取り組みです。

プログラム内容

NHMプロジェクト 「共生—先生の植物利用」
—びらとちねとびら—

実施日：6月8日（木）
時間：12:00~15:00
参加者：NHM文芸センターおぎざら館 45名 【希望者】10名

時間	進行	内容
8:00	おぎざら館	
8:45	アイヌ文化センター到着	
9:50	アイヌ文化センター出発	バスへ乗車
		展示説明 パンフレット、アンケート配布
10:20	すすずらふ原生地 到着	
	すすずらふ農家	参加者と同行
11:15	すすずらふ原生地出発	徒歩で参加者を誘導し、道沿いでの有用植物について説明
11:40	多摩川本郷・葦原の森原生地 地区→2、8-5 到着	
	8-5 見学	スポット1、2 水辺環境周辺の説明
12:10	8-5 見学（重要）	展示説明（重要） 展示資料の活用となるスポットの草木の説明
12:50	8-5 見学	スポット2との説明 （ガンドラックス）
13:15	多摩川本郷・葦原の森原生地 地区→2、8-5 出発	
	バスで移動	
14:20	二子岡アイヌ文化センター 見学	展示資料の説明など
15:00	アイヌ文化センター 見学	成り立ちやレクリエーションなどの説明
15:45	アイヌ文化センター出発	
17:30	おぎざら館到着	

進め方・流れ

すすずらふ原生地
(すすずらふ農家)



すすずらふ原生地 到着
8-5へ徒歩で移動



8-5 見学



展示ゾーン
(スポット1、2
水辺環境周辺)



意見交換（重要）



8-5 見学



二子岡・風見アイヌ文化博物館 見学

質問：1 見学

アイヌ植物の活用を学ぶ
（展示スタッフ利用、参加者のサポート）



道通川で採集してつくった！（オウゴン1丸）、梅の餅や梅干しについて解説



有用植物の活用を学ぶ
（展示スタッフ利用、参加者のサポート）



8-5での着席、着席方法や植物の有用性を学ぶ
（展示スタッフ利用、参加者のサポート）



地元の食文化
ランチやウー
目にするもの
協賛で買付し
た食文化、ニュー



アイヌのたのしみや生活文化（展示文化）を体験
（展示スタッフ利用、参加者のサポート）



有用植物の活用を学ぶ
（展示スタッフ利用、参加者のサポート）

8-5での着席、着席方法や植物の有用性を学ぶ
（展示スタッフ利用、参加者のサポート）

パンフレットを通して説明

地域文化のアイヌ文化に 見学
（展示スタッフ利用、参加者のサポート）

アイヌ文化の活用を学ぶ
（展示スタッフ利用、参加者のサポート）

アツニ



アツニ=オヒョウの木の皮
ニ=木

カリンパニ



カリンパニ=サクラ皮ニニ木



まとめ

資料 F-⑫



★学校教育を含め、アイヌ文化普及・啓発の
実践で独自・最新の知見を活かしながら
(文化継承&調査保全の)担い手自らが行う
効果的なスタイルを新たに確立しつつある

